

3月 定例会

令和5年度補正予算（総額41億7,896万2千円）
令和6年度当初予算（総額868億4,447万9千円）
令和6年度補正予算（総額708万8千円）を可決

令和6年第3回3月定例会は、2月27日から3月21日まで開催され、議案47件を審議し、最終日には、議案などの採決を行いました。

また、3会派の代表者が代表質問を、議員12人が議案質疑と一般質問を行いました。発言の要旨は、会派別に4ページから9ページに掲載しています。



西条自民
クラブ

一色 輝 雄 議員



- 1 財政運営について
（代表質問）
- 2 次代を担う子どもたちのための学校教育環境について
- 3 企業誘致に向けた取組について
- 4 合併20周年記念事業について

財政状況の見通しは？

問

人口減少の中、扶助費などの義務的経費及び大型公共施設の整備・更新などの投資的経費の増加により、厳しい財政運営が求められているとの認識を市長は示されているが、令和6年度の当初予算編成では、歳出改革にど

のように取り組んだのか。
また、今後の財政状況の見通しをどのように考えているのか。

答

歳出改革として、各部署局長のマネジメントの下、経常的経費については、物件費などの対象経費で令和5年度予算額を上限とする枠配分方式を継続実施して経費を圧縮するとともに、政策的経費についても、経費削減や事業の優先順位付けを図った。しかし、令和6年度当初予算は、投資的経費の増加などにより、令和5年度当初予算と比較して、一般会計で60億1千万円の増額となっている。財政状況の見通しとしては、社会保障費や公債費などの増加が見込まれ、経常的経費の増加が避けられず、施設の長寿命化改修などの大型の投資的事業も見込まれている。また、課題となる財源の確保については、歳出改革に加え、使用料などの見直しによる受益者負担の適正化、企業の留置・誘致の推進、税収の確保に取り組み、各種施策を着実に推進していきたい。

どう進める？

学校規模の適正化

問

学校教育においては、集団の中で、多様な考えに触れ、一人一人の資質や能力を伸ばすことが重要であり、小・中学校では、一定の規模が確保されていることが望ましいとの考えの下、学校規模の適正化などを検討しているが、どのようなスケジュールで取り組んでいくのか。

答

学校規模適正化については、本市が令和4年度に保護者及び教員を対象としたアンケートの結果を受けて、令和5年1月の総合教育会議で方針が決定したものである。これを受け、教育委員会においてワーキンググループを立ち上げるとともに、全庁横断的検討組織としてのプロジェクトチームを立ち上げ、研究・検討を行うこととした。現在は、ワーキンググループで通学対策などの検討を行っており、プロジェクトチームでは、最新の将来児童・生徒の予測データを基に、複式



課題の共有のため地域と市による
タウンミーティングを開催

学級の発生する学校や単級校の予測などを行っている。
令和6年度は、外部有識者や各団体の代表者などからなる審議会を立ち上げ、将来的な学校適正規模・適正配置などの基本的な方針について答申をいただく予定である。
学校再編については、タウンミーティングなどで意見を伺っており、世代による意見の違いもあるが、基本原則である次代を担う子どもたちのための学校教育環境の創出に向けて、令和6年中を目途に審議会からの答申を受け、総合教育会議などで方針を決定したい。